

母子保健事業の向上に関する衛生行政学的研究

分担研究者 郡 司 篤 晃

<要約>

この分担研究の内容は、母子保健事業を向上させるための基盤整備として、マンパワーの基盤と効果的な実施システムを明確にする衛生行政学的な研究である。

今年度は、1) 母子保健事業の関係職種の稼働量を推定する研究と 2) 母子保健事業の効率的な運用に関する研究と 3) 地域保健における母子保健要員業務のあり方に関する研究を実施した。

その結果要約は以下の通りである。

1) 母子保健事業の関係職種の稼働量を推定する研究

保健所及びその管轄する市町村を対象として、アンケート調査を実施した。その結果、母子保健に関与する保健婦の全ての稼働時間つまり、各母子保健事業の実施、母子保健事業全体の計画、評価、研修に費やした稼働時間のすべてを総合した、母子保健に関するすべての稼働時間と出生数との回帰直線は以下の式で示された。

$$\text{母子保健での保健婦全稼働時間} = 4.74 * \text{年間出生数} + 4314.62$$

一方、乳児死亡率と出生当りの保健婦稼働量との関連を見ると、乳児死亡率と保健婦の全ての稼働量を出生数100人当りで求めた、単位出生数に対する保健婦の全ての稼働量との関連についての回帰分析では、以下の単回帰式が求められ、出生単位毎の保健婦稼働量が多いほど、乳児死亡率が低いという傾向が示されたものの統計的には、有意ではなかった。

$$\text{乳児死亡率} = -2.211 \times 10^{-4} \times \text{出生数100人当りの保健婦稼働量} + 6.52$$

市町村で実施される母子保健事業での市町村保健婦の全ての稼働時間と出生数との関連を回帰分析した結果、母子保健に関する全ての稼働時間つまり全稼働時間と出生数との回帰直線は以下の式で示され統計的に有意であった。

$$\text{母子保健での保健婦全稼働時間} = 2.70 \times \text{年間出生人数} + 634.4$$

2) 母子保健事業の効率的な運用に関する研究

母子保健事業の効率的な運用に関する研究では、効率性の概念既定を行いつつ、資源活用システムを検討し、同時に効率化のための課題を整理し、対応方法について検討した。その結果、母子保健事業の効率的な運用をして行くためには、ニーズ対応システムが必要であり、同時にフォローアップシステム、役割分担の明確化、評価方法や情報システムの充実が必要であることが示された。

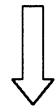
3) 地域保健における母子保健要員業務のあり方に関する研究

地域保健における母子保健要員業務のあり方に関する研究では、保健婦の役割分担を、訪問や健康診査に分けて分析し、産婦や乳児の保健指導実績が増加していることが明確になった。また、保健所と市町村に分けた、保健婦の役割分担では、規模の大きい市町村では、独自に事業を実施していることが多いことが示された。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



<要約>

この分担研究の内容は、母子保健事業を向上させるための基盤整備として、マンパワーの基盤と効果的な実施システムを明確にする衛生行政学的な研究である。

今年度は、1)母子保健事業の関係職種の稼働量を推定する研究と2)母子保健事業の効率的な運用に関する研究と3)地域保健における母子保健要員業務のあり方に関する研究を実施した。

その結果要約は以下の通りである。

1)母子保健事業の関係職種の稼働量を推定する研究

保健所及びその管轄する市町村を対象として、アンケート調査を実施した。その結果、母子保健に関与する保健婦の全ての稼働時間つまり、各母子保健事業の実施、母子保健事業全体の計画、評価、研修に費やした稼働時間のすべてを総合した、母子保健に関するすべての稼働時間と出生数との回帰直線は以下の式で示された。

母子保健での保健婦全稼働時間=4.74*年間出生数+4314.62

一方、乳児死亡率と出生当りの保健婦稼働量との関連を見ると、乳児死亡率と保健婦の全ての稼働量を出生数100人当りで求めた、単位出生数に対する保健婦の全ての稼働量との関連についての回帰分析では、以下の単回帰式が求められ、出生単位毎の保健婦稼働量が多いほど、乳児死亡率が低いという傾向が示されたものの統計的には、有意ではなかった。

乳児死亡率=-2.211*10⁻⁴*出生数100人当りの保健婦稼働量+6.52

市町村で実施される母子保健事業での市町村保健婦の全ての稼働時間と出生数との関連を回帰分析した結果、母子保健に関する全ての稼働時間つまり全稼働時間と出生数との回帰直線は以下の式で示され統計的に有意であった。

母子保健での保健婦全稼働時間=2.70*年間出生人数+634.4

2)母子保健事業の効率的な運用に関する研究

母子保健事業の効率的な運用に関する研究では、効率性の概念既定を行いつつ、資源活用システムを検討し、同時に効率化のための課題を整理し、対応方法について検討した。その結果、母子保健事業の効率的な運用をして行くためには、ニーズ対応システムが必要であり、同時にフォローアップシステム、役割分担の明確化、評価方法や情報システムの充実が必要であることが示された。

3)地域保健における母子保健要員業務のあり方に関する研究

地域保健における母子保健要員業務のあり方に関する研究では、保健婦の役割分担を、訪問や健康診査に分けて分析し、産婦や乳児の保健指導実績が増加していることが明確になった。また、保健所と市町村に分けた、保健婦の役割分担では、規模の大きい市町村では、

独自に事業を実施していることが多いことが示された。